

令和6年度 第1回大野市総合教育会議 会議録

日 時：令和6年12月24日（火）午後2時30分～3時30分

場 所：大野市役所 2階 大会議室

令和6年度 第1回大野市総合教育会議

日時：令和6年12月24日（火）

午後2時30分～

場所：大野市役所 大会議室

1 開会

（大野市民憲章及び大野市教育理念の唱和）

2 市長あいさつ

3 議題

（1）こども・若者計画に定める若者育成支援について

（2）その他

4 閉会

大野市総合教育会議出席者名簿

	役 職	氏 名
1	市長	石 山 志 保
2	教育長	久 保 俊 岳
3	教育委員 (教育長職務代理者)	馬 道 保
4	教育委員	松 谷 由 美
5	教育委員	松 田 輝 治
6	教育委員	羽 生 た ま き

(事務局)

1	行政経営部長	吉 田 克 弥
2	政策推進課長	小 林 勝 信
3	教育委員会事務局長	横 田 晃 弘
4	教育総務課長	土 蔵 郁 代
5	学校教育審議監	山 川 龍 一
6	こども支援課長	山 崎 勝 彦
7	生涯学習・文化財保護課長	佐々木 伸 治
8	政策推進課課長補佐	前 田 晃 宏
9	教育総務課課長補佐	森 永 奈 緒 子

<傍聴者>

なし

1 開会

―― < 市民憲章、教育理念唱和 > ――

2 市長あいさつ

本日は、大変お忙しいところご出席いただき、また教育委員の皆様には、平素から教育行政の推進に多大なるお力添えを賜り心から感謝申し上げます。

先月、「屋内型こどもの遊び場O S O R A」への現地視察にご参加いただきました。年内には完了検査、来年の1月25日には予定どおりオープンといった段階までできている。この施設の整備は、本市の子どもの健全な育成と、安心して子育てができる環境の充実に繋がるとともに、まちなかの新たな魅力となり、市外からも多くの方に訪れてもらえることに大いに期待をしている。整備は市長部局でさせていただき、オープンした後は教育委員会へ引き継ぎさせていただいて、教育委員会と市が連携をして、施設の有効活用を図っていききたい。引き続きよろしくお願いする。

さて、本年度の取り組みとして、仮称こども・若者計画の策定作業を進めてきた。「第二期大野市子ども・子育て支援事業計画」が今年度5年目に当たり、この計画の改定に合わせて、新たに子ども・若者育成支援や子どもの貧困対策について追加するものとなっている。今年度の策定に当たり、関係者のご意見を多くお聞きしたいということで、令和6年2月には、就学前児童の保護者や小学生の保護者を対象とした子ども子育て支援に関するニーズ調査の実施を行った。今年度5月には、公立保育園保護者連合会との意見交換会に私も教育長もご一緒させていただき、直接お聞き取りした。

そしてまた8月には、市内大学生、高校生、小学生からの意見聴取、10月には大野青年会議所青年部との意見交換会、11月には地域おこし協力隊の協力を得て、若者から話を聞く会を開催した。またこの間に、2回の子ども子育て会議を開催し、計画の体制や骨子について協議を行ってきた。そういった段階まで進んできているということで、本日は、こども・若者計画に定める「若者育成支援」について、委員の皆様からご意見をお伺いしたいと考えている。

すべての子どもや若者が、みずからの居場所を得て、成長・活躍できる社会を目指し、子ども若者の意見表明や社会参画を促進しつつ、社会総がかりで子ども若者の健全育成に取り組むための指針を定める計画改定となっており、忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

3 議題（進行：総合教育会議設置要綱第4条に基づき市長が務める）

（1）こども・若者計画に定める若者育成支援について

――事務局より説明――

【教育長】

先般大野市の十大ニュースが発表され、第1位が学校再編だった。多くの方にご理解いただいてありがたいと思う一方、市民の皆様からの教育や子育てについてさらなる充実をという大きな期待だと思っている。

そういう意味では、このバージョンアップの際に、若者も含めた総合的な整備を進めたいと思う。本日は本当に良い機会をいただいたと思うので、普段思っておられることをお聞かせいただけるとありがたい。

【松田委員】

経験上といっても古い経験しかないが、ちょうど50年ほど前に、公民館主事をしていた。今この中で、若者の居場所づくりと書いてあるが、その時は居場所とかそういう意識はなく、とにかく地域に住んでいる若者たちに1人でも多く地域づくりに参加してもらおうということで、各公民館の主事が、各地区の青年に呼びかけた。私が公民館主事として阪谷公民館に行く前からあった若者グループが衰退していて、私が行った頃にはほとんど活動が停滞している状況だったので、新たなグループを作ろうということになった。30歳以下の既婚者は除いた若者たちに、公民館に一度来てみませんか、若者で阪谷を変えてみませんかと呼びかけた。50年前もよく似たようなことを言っていた。今から考えるとその頃は若者がたくさんいたのだが、仕事がバラバラなどと言う理由でなかなか集まらなかった。しかし2年ほどかけて、とにかく女性を集めれば男性は集まるのではないかと考え、手紙を出したりしながらグループづくりを始め、若者の青年サークルができた。その頃やはり、各地区の公民館にいる青年担当の主事が、地域の若者を地域に参加させられないかということで一生懸命に集めていた。その時、公民館長には何も言われなかったが、社会教育課から行政があまり団体に介入すると良くないと言われていた。私は一緒に飛び込んで溺れてもいいから、とにかくみんなに来てもらいたいと思っていた。それは、市内各公民館の主事たちも同じような考え方であった。特に居場所づくりというのを意識しなくても、公民館の中で積極的に若者を集めて、ただみんな集まったから自分たちで勝手に何かやってくれと言ってもなかなか難しい。1つの課題を見つけて、何かやっていこうとする中で、その地域の中に出来たグループがそれなら他の地域にできたグループはどうやっているのだろうと、

グループ同士の交流が出てくる。若者の交流の中で自然にまた次の交流が出てくる。地域の公民館の中で地域活動をしていくと、そこでいろんな社会の中の勉強もして、その中からサークルのリーダー的な存在が生まれる。もう一度行政も視点を変えて、公民館の中で青年教育や家庭教育などを行い、地域の中に若者をいかにして引っ張ってこられるかということを考えて、もっと積極的に行政の職員が若者を引きつけていかなければ、なかなかこういう意識を持ってもらえないのではないかと考えている。行政でも、若者を地域の公民館へ引っ張れないかということを、一度試しにやってみるのはどうかと思う。

【馬道委員】

私の地区は、子どもも若者もととても少なくなっている。昔は子ども会活動がすごく盛んで、地区全体で海水浴へ行ったりいろんな行事があったりしたが、今は年に1回バーベキューをする程度である。公民館からいろんな行事に対して補助が出るようにしていただけると何か出来るのではないかと考えている。

家には独身の息子がいるが、どこか出かけてきたらと声をかけるとすぐに面倒くさいと言う。今の若者はいろいろやるのが面倒くさいと思っているような気がする。最近は忘年会や新年会にも参加しない若者が多いというのをよく聞くので、そういう傾向にあるのかなと思っている。

やはり学生の中に児童会行事や生徒会行事など、いろんな行事を積極的に計画実行するような体験をたくさんして、楽しかったという充実感を得るような機会が多くなれば、大人になっても若者になってもグループで何かしようという気持ちも強くなってくるのではないかと考えている。小さい頃から、そういう体験をすることが大事なのかという気はしている。

2つ目に、結婚して子ども1人を育てている娘の話だが、そろそろ2人目はどうかと聞いてもやはり消極的である。何が原因かを聞くと、将来の経済的な面が心配だと言う。保育料や学校給食費などはだんだん増えてくるし、教育費がすごく上がるのではないかと心配をしている。そして自営業をしている関係で、お客さんが来なくなった時にどうしていけばいいかという心配もあるようだ。コロナの時期のように収入がぐんと下がった場合などに補助を出してもらえるような制度があると良いと感じる。

ここにも記載があるように、事業所が結婚応援というのはあるが、私は学校関係の現場にいますので、産前産後や育休の代替教員がしっかり確保できるかということがすごく心配な若者もいると思う。そういうことが十分に確保できるならば、安心して結婚もできるし、子どもも生まれるのではないかと気がする。

【松谷委員】

今おっしゃられた金銭的な支援や生活面の支援は必要であるが、大野市の行政としては、力を尽くして最大限に支援していただいていると思っている。

私は音楽関係の仕事をしている。同僚などがどういう方々と家庭を築いているか見回してみると、その個人が小さい頃から積み上げてきた喜びや打ち込んだできたものというのが必ず個々にあると思うのだが、それをまず個人が仕事として確立した同士で結婚している人や片方は演奏家でもう片方はその活動を支援して1つの家庭になった人や趣味で音楽と音楽で繋がって家庭を持った人など、いろんなパターンの方々がいる。やはりそこで繋がっているのが、子どもの頃から作り上げてきた感情や五感などが根本にあると思う。打ち込んだものをわかり合える大人同士が家庭を作るという過程がいかに大事かということを職場を見返しても思う。大野市の周りにいる家庭の皆さんを見ていても、やはり自分たちが良いと思った文化や体育会系のものを子どもにさせてあげたい、そういう環境を作りたいということから家庭を作っているのだと思う。例えば、COCONOでのアート体験などには参加者がたくさんいて、皆さんがそこに足を運んで、子どもに体験をさせてあげようとしている。そういうところにニーズを感じていて、その家庭によって根差しているもの、子どもに与えたいものがそれぞれあるということで、そのソフト面の土台づくりを行政でもバックアップしてもらえると良いのではないかと思った。現在の支援策でも、起業創業支援や世代間交流での社会づくりを目指してくださっているので、どんどんこういうところで応援していただけると良いと思う。

それから、今の若い20代の子育て世代を見ていると、自分の意見を面と向かって発信する人やあからさまに意見を言う人が少ないように思っている。どちらかというとな人の行動を見て、それに対していろんな思いを自分の心の中で収めて、自分の行動に移していくようなタイプの人が多いと思う。例えば、インスタグラムやXなどのSNSを見ていると、結構若い世代が発信をしているが、それに意見をする人はなかなかいない。でも、みんながその様子を見て、あの人はこういうことをやっているんだとか、こういうところに出かけるとこういう行事をやっているから子どもにもさせてあげたいとか、言葉には発しないけれど、体で心で思っているという世代ではないかと思う。情報発信の仕方、これから考えていけると良いと思う。ラインやインスタグラムは結構周りでも見ているので、どんどん発信していく方法もあると思った。

【羽生委員】

私からは、大野市が打ち出している18年をつなぐ教育という観点でお話させていただきたい。

毎年、青少年健全育成推進大会が開催されており、今年も資料を読ませていただいた。市内の2つの中学校、2つの高校の子どもたちによるパネルディスカッションがあり、将来の夢は何ですかという問いに、この4名がこぞって、地元での教員、保育士、飲食関係、設計士と答えておられた。そのきっかけになったことは、自分が悩んでいた時に真摯に向き合ってくれた担任の先生の影響や校外学習体験学習で保育園に行った時にこの仕事がいいなと思ったことやおじいちゃんおばあちゃんが作ってくれる地元の安心安全な野菜で何かお店をしたいと思ったことなど、いずれも大野市のつながっていく教育とか、土壌に由来することをきっかけとして、夢としてつないでいることを読ませていただいて、1つ1つの小さな種である教育が、時間をかけながらこうして実っていくんだと非常に実感できて感動した。こういう面も、引き続き18年と謳っている中では非常に小さくて地味なことではあるが、1つ1つ大事にしていくことも、1つの成果につながると思っている。それに加えて、どうしたら大野に残ってくれるか、結婚してもらえるかという支援策になると、我が子はいずれも30歳を越えてから結婚している。国の政策に基づいての市の計画になるので、支援の年齢に30歳未満という壁があって、いずれも有効に受けることはできなかった。これは市でどうこうできることではないかもしれないが、これだけ晩婚化が進んでいる中において、この年齢の基準の見直しというのは、今後国としても、各県市町としても、とても必要なのではないかと思う。必要な人が必要な条件で支援が受けられるようにお願いしたい。

結婚の縁結びについては、近隣の方でも40歳、50歳になっても独身の方が多い。結婚はしたいができないという方より、そもそも結婚を望んでいない方が多くて、ここをどう動かすかというのはすごく難しいと感じる。

それから、少ない数字ではあるが、婚姻関係とは別の形で、紙の婚姻届を出さずにパートナーになっている方もおられる。こういったことも含めて、マッチングや支援の形がどんどん多様化していかないと難しいという気がする。

自分の地区は小さいが、意外と県外から嫁いでこられた方がたくさんいて、口を揃えて驚かれるのが、福井県や大野市にはなんて働き者の女性ばかりいるのだろうということである。自分自身が生まれたところは、それほど共働きが多くはなく、家で家庭を守っている方が多かったので、そのギャップがある。こちらは共働き率が高いので、どうしてあのお家のお嫁さんは働かないのかという目線で見られるのが非常に辛い。でもお嫁さんたちは家で何もしていないわけではなく、介護の手伝いをしたり農作業したりしている。せっかく県外から来ていただいた人に、こちらの目線に当てはめるのではなく、もう少し間口を広げないといけないことに気付かされている。

結婚して大野に住みたいかということに関しては、実は一度県外に出られた

方たちが、大学を卒業して就職のために戻って来られる時に口を揃えて言うことが、一度外に出てみたからこそ、家のありがたさやふるさとのありがたさにすごく気付かされ、また戻って来たいと思ったということである。一旦外に出られている方たちに向け、一堂に集う20歳のつどいの時などにもう一度ふるさとはいいところだよというアプローチをもう少し進めていってもいいのではないかと思う。どうしようか悩んでいた方が、たまたま帰省されていた時に、地元の演奏家による歌や音楽の演奏会に行き、こういう音楽はここで生まれ育った人にしか出ない歌声や音色なんだということに非常に感動されて、子どもを生むにはやはり地元でと帰ってきたという声も聞くので、いろんな仕掛けの中で、一旦外に出ている人にもう一度PRする何かイベントのようなものも大事だと思っている。

先ほどの話に戻るが、パネルディスカッションの中で4人の中高生の皆さんに大人へのメッセージを聞いたところ、地域の行事が少なくて寂しいということや口を揃えておっしゃられていたし、大人はスマホばかり見ていて、ほとんど会話をしているのが見られない。もっと面と向かって会って話をするのが活性化につながると思うという意見や、自分の住んでいるところを素敵なおところだともっともっと発信できる大人になってほしいという意見があった。子どもたちからは少なくともそういう目で見られている。そこが若者や私たち世代につながっていくことで、うまくスライドしていけたら良いと感じる。

【市長】

少し整理をしていきたいが、現状持っている計画「子ども・子育て支援事業計画」というのは、主に未就学児が多くなってくるが、5年間の中の保育の量がどのくらいあって、預ける人数がどのくらい必要かなどを大野市全体で見込んだものを福井県や国の方に登録をして、国の計画なども立て、交付金、助成制度などを整えていくために今までもってきている。

もう1つの「次世代育成支援対策」の方になると、もう少し広がってきて、いろんなご家庭の健やかな環境、学校だけでもこども園の中だけでもない、地域や働く場所なども含めて、次世代の育成ということが付加されてきた。だから働きやすい職場なども入ってきたわけだが、今回新しく、少子化が進んでいく中で、子どもたちの意見を踏まえた考え方をしようとか、或いは若者というのも入ってきたのだが、若者というとだいたい30歳前半ぐらいまでの方を想定している。

子どもの貧困対策で、家庭の状況によって子どもの進路などが決まってしまうないようにというものも入ってきて、大野市ではこういったものを一体としてやりましょうということで、ここに記載があるとおりの「子ども・若者の健や

かな育成、子ども・若者が社会生活を円滑に営むことができるようにするための支援その他の取組について定める」とあるが、概念としてはなかなか難しいと思う。これと言うのはなかなか難しい中でやっていかななくてはいけないことを、4名の委員の方からお伺いするだけでも感じている。

教育委員会の方で進めていただける部分もあると思う。生涯学習の分野のところはそうであるし、もっと民間の方も一緒に社会を作っていかななくてはいけないので、そういったところについては市長部局ともいろいろ意見を共有しながら、働きやすい職場づくり、子育て世代にやさしい企業という取り組みについては、もっと進めていく必要があると感じている。

今の基本を押さえた上で、4ページにいろんな方々のご意見を踏まえてきて、左側のページに若者の意見もあり、30歳前後の本当にお若い方々の心境というか、どういうところを手助けしてもらおうと楽しみながら生きていってくれるのかなと考えると、結構キーワードがあると思う。スマホ世代になってきて、いろんなことの刺激もすでに受けていて、面倒くさいという思いもある。ただ遊びに行く場所を作ったと言っても、なかなか出てきにくい年代の方々になってくる。そんな中でも出てくるご意見とか、結構頑張っている高校生の子たちとか、大野に来てくれる大学生のいろんなボランティアの方々などの思いを酌み取ろうとすると、楽しい方ではなく、地域の人の役に立てるようなところにむしろ関心を寄せてくださって、頑張っているということが感じられる。

そして、空き家などを面白がってくれて、これを生かす場にしようなどと考えてくれているので、人のためになることに参加してみませんか、事業所などを通じて何かしてみませんかというコミュニティが作っていってくれるのだとすると、若者の方々も、自分のためになると思って出てきてくれるのかなという気がする。楽しみ方が少し変わってきているのだと思う。幸せを感じてくれるというのか、単純に面白おかしいということではなくて、何かじんわりと地域のために自分も役立つことができたんだという喜びを感じていけるところに来てくれるのであれば、そういったところに事業所などに関わってもらえると良いと思った。

もう1つは、将来の見通しというところにキーワードがあると思う。今の方々に役立つものは、ライフプランをどのように描いていくといいのかとか、社会保障とか保険制度とかにも関心があると思う。お子さんが生まれるとか住宅を持とうとなると、ファイナンシャルプランナーに相談に行ったりするが、今の若い方はもう18歳から自分で契約ができたりするので、そのぐらいの年代の方から、こういう時にこういうお金が動くというようなことをしっかり教えてあげた方が、将来の夢を描きやすいのかもしれない。

【松田委員】

先ほどの続きになるが、その人たちが何かをした時に、バックアップしてあげるとか褒めてあげることが非常に大事だと思う。小学校、中学校、高校でも頑張っている子には頑張っていることを褒めてあげるとか、バックアップするというのが非常に有効な手立てではないかと思う。

このライフプランや消費者についてなどは、先ほど話した50年前の青年教室で、あなたをグレードアップしましょうということで同じようなことをやっていた。各公民館でしていた青年教室のものは、以前あった社会教育法の中の青年学級振興法というのが土台になっていて、各公民館でそういうものをやっていたのだが、そこへ来れば何か楽しいことがあるというものだった。今は各公民館でというのは難しいかもしれないが、私が社会教育課にいた頃は、越前大野青年塾というのを立ち上げて、ただ集まるだけではなく行政の方から働きかけて、あなたは立派な人だけどもっとグレードアップしませんかということでやっていた。

1つ残念に思ったのは、国体選手の激励について、昔は激励会をしてくれたらしいのだが、今年は人数が少ないため激励費の振り込みだけだった。激励会をしてもらおうと頑張ろうという気持ちになったが、ただお金を振り込まれるだけではいかにも行政的だと思う。たとえ1人でも2人でもいいから、行政の方で直接顔を合わせて直接手渡すということは、心と心も触れ合うし、本当に頑張ろうという気持ちが出てくるみたいなので、ささいなことではあるが、直接触れ合っただけでできるような配慮というのもやっていくとどうかと思う。なかなか難しいかもしれないが、こんな時代なので、行政が少しいろんなことでテコ入れをして、大野に愛着心を持ってもらえるような手立てを小さい頃からやっていけばいいのではないかと思う。

【市長】

時代は行政よりもみんな、そして社会というか会社、民間企業の方になっていて、生涯学習というよりも、そちらの方に課題が移ってきているような感もある。行政の関係者も、これまでも今も力一杯出ているかと思うので、それならどうしたらいいのかという部分のところはまた作っていけると良いとは思う。

【教育長】

先ほど市長がおっしゃっていたボランティアや社会貢献の件で、先般大野高校のボランティアスタッフJRCが、全国の子ども若者部門での奨励賞として表彰を受けた。まさに社会貢献というところに、彼ら彼女たちは喜びを感じている。今度、冬物語があるが、そこには奥越明成高校のボランティア部の子

ちが参加する企画がある。高校生が日々頑張っていて、阪谷小学校の児童がバスツアーを企画するなど、小中からつないでいる。小さい頃からずっと積み上げてきたものが、そういう形で花開いていると思う。学校関係者、大人が、そういうことを意識しながら、子どもたちの活動をサポートすることが大切だと思っている。

【市長】

本日はいつもと違う少し新しいテーマであった。古いものだが、改めてどういう方法でやろうかと考えると、非常に新しい難しいテーマになる。そうした課題にご意見をいただけたことに心から感謝を申し上げたい。

これにて終了とさせていただきます。

4 閉会